

### 日本薬学生連盟広報部

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が現在も世界中で猛威を振っています。5月25日をもって緊急事態宣言が全都道府県で解除されましたが、県外移動の自粛要請や「withコロナ」というキャッチフレーズの誕生など、現在も依然として生活に大きな影響が出ています。日本薬学生連盟は4月に薬学生を対象にアンケート調査を実施して現状を聞きましたが、今回は医療系学生まで対象を広げて再調査を行いました。あれから4カ月が経過した現在、医療系学生は現状をどう捉えているのでしょうか。

今回は薬学部の学生だけでなく医学部や看護学部などの学生にもご協力いただき、128人から回答を得ました。また、各大学で行われている感染予防への取り組みや、それぞれが感じる現状や将来に対する様々な不安を聞きました。アンケート調査は、アジア医学生連絡協議会（AMSA Japan）、国際医学生連盟日本支部（IFMSA-Japan）、日本国際保健医療学会学生部会（jaih-s）の会員の皆さんの協力を得て、7月21日から8月5日まで実施しました。

## 医療系学生にアンケート調査

# 新型コロナウイルス強い危機感続く

### 8割が「危機感あり」

はじめに、▽現状に対する危機感を持っているか▽今後状況はどう変化すると考えるか▽三密（密閉・密集・密

接）を避けた行動をとっているか——について聞きました。危機感を感じている学生は128人中

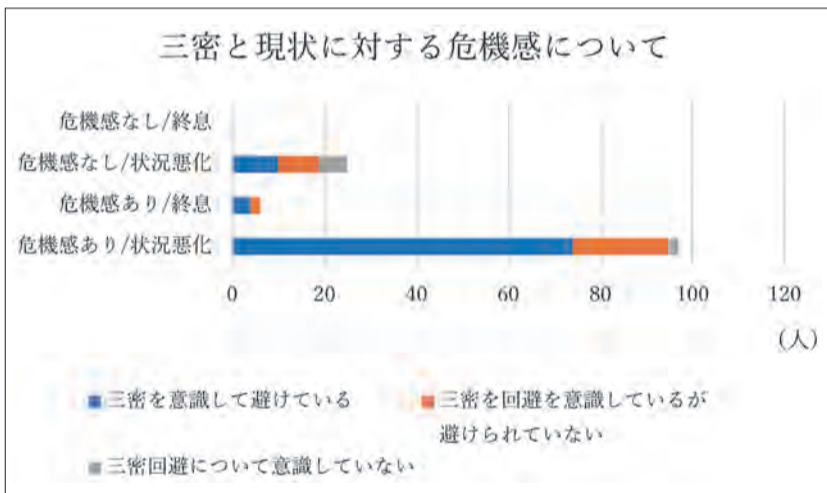


図1 三密と現状に対する危機感について

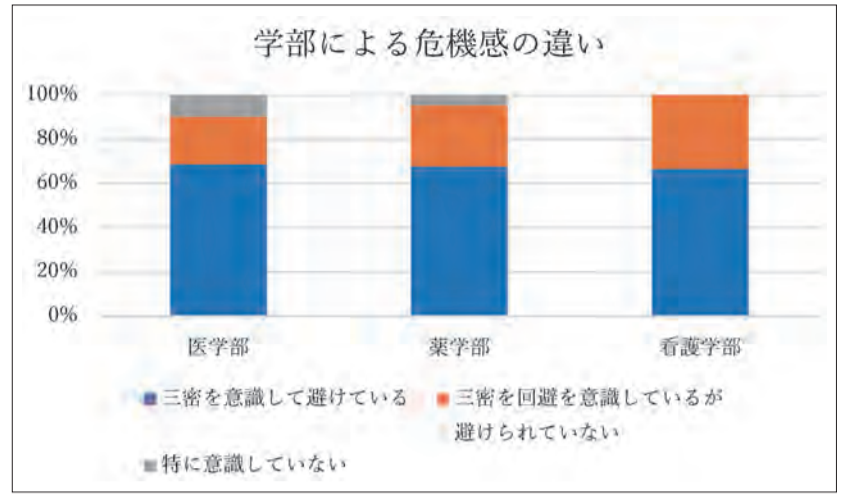


図2 学部による危機感の違い

103人で、全体の80.4%（前回は8.8ポイント減）でした。緊急事態宣言が全国で発令された前回調査より低くなっているのはありますが、依然として多くの学生が現状に対して危機感を感じているようです。このアンケート調査を行った期間が、ちょうど東京都内で感染者が急増した時期と重なったことも関係

があるかもしれません。

図2は特に回答数が多かった医学部、薬学部、看護学部別の危機感の感じ方を示したグラフです。危機感について学部間での差は見られませんでした。三密の回避に対する意識も学部間での差異は見られませんでした。

### 危機感を感じるも増える外出

続いて、緊急事態宣言発令時と比べて不要不急の外出の頻度がどう変化したかを聞きました。

危機感を感じている学生と、感じていない学生の間で不要不急の外出の頻度に関して違いはあまりなく、むしろ危機感を感じている学生のほうが不要不急の外出の頻度が増えている

傾向があるという結果が得られました。

大学によっては対面での試験や実習が行われているところもあり、それに伴い久しぶりに再会した友人との外出など、不要不急の外出をするようになった学生が増えているのではないのでしょうか。

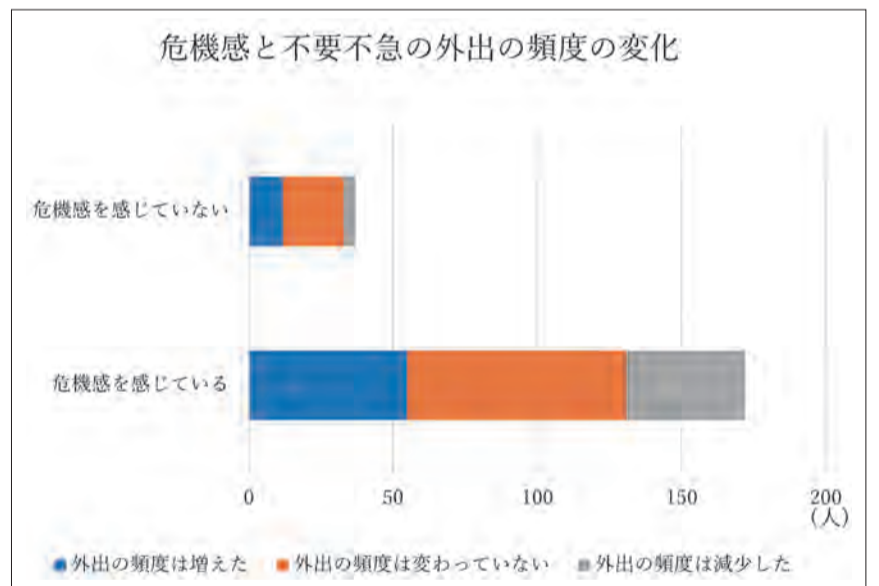


図3 現状への危機感と不要不急の外出頻度について

## “患者”と“医療者”による本当のチーム医療とは!?



# 患者参加型医療

本当のパートナーシップの実現を目指して

医療のこれからのあるべき姿である「患者参加型医療」。その考え方を広め、実現するために、患者と医療者双方の立場から「わかりやすさ」をコンセプトに概念や課題などを詳述した一冊。

【編著者】 岩堀 禎廣

【著者】 鈴木 信行  
有田 悦子

【目次】

- 第1章 患者参加型医療とは？
- 第2章 なぜ、患者は薬を飲まないのか？
- 第3章 患者視点のない医療者は生き延びれない
- 第4章 患者の想いを共有するために～薬剤師と患者のコミュニケーション～
- 第5章 最初の一步は薬剤師から！

A5判/104頁/定価1,800円+税

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<https://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。